


























名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
狩猟用具 神野善治											
 やり 槍	寒中にカモシカや熊などを捕獲するために用いられた槍。刃先は鍛冶屋が造り、柄は自製。アオシヤリ・クマヤリなどと獲物により刃先の形態や名称が異なる。	シツツキヤリ	アオシヤリ、クマヤリ			シヤリ、ヤリ	シツツキヤリ、カリ	ヤリ	ヤイ		
 りょうじゅう 猟銃	猪や熊、鹿などの狩猟用具として猟師（狩人）が用いた小銃が民具として残る。空砲を撃つて脅すときにも用いられたものもある。銃口から硝煙と鉛玉を入れ、火縄で点火する火縄銃に改良がくわえられて、明治期に村田銃となり、やがて今日のライフルへ替わる。	テツボウ、ヒナフジュウ	ムラタジュウ			ヒナフジュウ、ムラタジュウ		テツブ、ムラタジュウ、リョウジュウ、カイリョウヒナフジュウ		【鉄砲】 かりやす・つつ・どんどろ 以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一）	
 じゅうだん 銃弾	猟銃の弾丸。弾丸が単一か散弾かの別がある。銃弾は筒形の薬筒に多数の小粒の弾が入る。	タマ				ホンダマ		タマ			
 たまつくり 弾作り	狩猟用の火縄銃などに用いた弾丸を鉛で作るときの鋳皿と鋳型。二つに分かれる鋳型の合わさったところに丸穴が空き、溶けた鉛を注いで弾が固まると開いて取り出せるように柄が付く。	タマツクリ				イガタ		タマツクイ、タマツクリ			
 たまいれ 弾入れ	猟銃の弾丸用の容器。木彫などで手造りのものがあつた。					ダンタイ		タマイレ			
 かやくいれ 火薬入れ	狩猟用の火縄銃などの鉄砲に用いる火薬を入れて持ち歩き、銃に充填するための口が付いた容器。	カヤクイレ									
 かんじき	雪の中での狩猟には必需品だった。	カンジキ	カンジキ								
 かなかんじき 鉄かんじき	雪中で歩くときに滑り止めに用いる補助具。鈎のついた小さな鉄棒を、雪香の下につけて凍った雪に差し込みながら歩く。	カナカンジキ	カナカンジキ								
 かわぐつ 皮沓	熊の毛皮などを縫い合わせて作った皮沓。雪中の狩猟では必需品だった。	クマクツ	カワタビ								
 しりかわ 尻皮	雪中の作業で休憩時などに腰掛けるときに尻が濡れないように常に腰につけておく毛皮。	シリシキ									
 こすき 小鋤	雪中で狩猟をするときに雪掻きをするへら状の道具。身体をささえ、また猟銃を使うときにも雪に立てて支柱にした。	コウシキ	クシキ								
 ゆみや 弓矢	狩猟に用いた弓矢が保存されている例は少ないが、アイヌの彫弓など、民族資料には特色のある資料が残されている例がある。また、実際に使われるものではないが、狩猟の儀礼に用いられたり、年中行事の作り物や縁起物の弓矢は今も作られている。関連する民具に矢筒などがある。										
 やまがたな 山刀	狩猟の際に、獲物の解体に用いる小刀。サントウ・ナガサ・キリハ・ヤマカラシ・ヤマナギ・マキリなどという。東北地方などで一般的な腰鉈をヤマガタナと呼んでいるところもある。関連で鞘に注目しておく必要がある。桜皮などを巧み美しく巻いて丈夫にしたものなどがある。	サバキコガタナ	キリハタナ			ヤマガタナ		ヤマキイ、ヤマキリ、ヤマカラシ	ヤマナジ、カタナ	【先の尖った山刀】 さすが・やまからし以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
 わな 罠	鳥獣を捕獲する仕掛けのひとつ。くくり罠・かぶせ罠・箱罠・箱落とし・とらばさみ（虎挟み）・おし（押し）などの種類があるが、まずは罠としておく。くくり罠は小鳥や獣の首や脚を縄やワイヤーで輪でくくって捕える仕掛けで、クブチ・ブツバジキなどの名がある。かぶせ罠は、網や籠などを被せて獲物をとらえる仕掛けで、オッカブセなどの名がある。箱罠はイタチなど小動物を狙い、中に入ると口が閉まって生け獲りにする仕掛け。箱落としは箱の蓋が中に落ちて圧殺する仕掛けでトイタオトシ・ヒラオトシなどという。ネズミ捕りに類似がある。押し（おし）は熊などの比較的大型の獣を狙う圧殺型の罠。とらばさみは金属製で獲物の足を挟む。					バンナ		ワナ			
 ことりわな 小鳥罠	罠の一種で、野鳥の捕獲に用いられたもの。方式は微妙に違うものが各種あるが、木の枝などの弾力を利用して、紐で結んだ小枝がはずれて獲物をはさみ捕る仕掛け。パツタン・ブツメなどさまざまな呼称がある。							ウツツメ			
 いたちわな 鼬罠	罠の一種で、竹弓の弾力を利用して竹筒の中に入った鼬などの獲物の頭や頭を締め捕える。					イタチトリ	イタチトリ	イタチバコ			

※備考欄にはあなたの地域の呼称を記入してください

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 トラバサミ 虎挟み	罾の一種で、鋼鉄製のバネを利用した仕掛け。これを開いて獲物の通路に据え、踏板を押すと獲物の足や首などを挟んで捕える仕掛けである。規模は大小さまざま。人が踏む事故もあり、大型のものと鋸歯のあるものは法律で禁止されている。「虎ばさみ」という呼称は、英語のトラップに由来するという説がある。	トラバサミ、トラップ				ハサミ、カマバサミ		ハスノワナ、ヤマインノワナ、イタチノワナ			
 ねずみとり 鼠捕り	罾の一種。鼠を対象としたものには、いろいろな罾の方式が用いられている。バネ式の簡便なものが商品になっており、金網の籠にカエシの付いた入口があるものは漁具の筥に仕組みが似ている。箱落とし式のものは古くからあった。						ネズミトリ	ネズントイ			
 かすみあみ 霞網	小鳥を捕獲するための張り切り網。鳥の飛び場所に設置したり、囿で誘って網目からまかせて捕る。旧法定漁具だったが、昭和25年に販売・使用が禁止されている。漁具の刺し網類に相当する。					カスマアミ		ツキアミ		【小鳥を捕らえる網】いちばんあみ・ひるてん・まちあみ・むせーあみ 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一） 【捕鳥網・かすみ網】てんのあみ・ひるてん・ぼーかい 以上、『標準語引き分類方言辞典』（東條操編）	
 とりがた 鳥形	鳥獣の捕獲や魚類の捕獲には、獲物の仲間に似せたり、餌に似せた鳥形、魚形などを漁具・器具の近くに置いて獲物を呼び寄せる方法がある。呪術的に用いられている場合があるようだが、鴨猟や野生の鶏の捕獲などでは人工の鳥形を囿として用いることがある。						トリガタ、オトリ			【鳥形】オトリ 以上、神野善治	
 わらだ	威嚇猟法による狩猟用具のひとつ。稲藁やフジ蔓などを輪状にまとめたもので、これを投げて鷹の羽根音などに擬して、野兎などを威嚇し、雪穴などに逃げ込んだところを捕獲する。	バイ								【わらだ】ワラダ 以上、神野善治	
 しかぶえ 鹿笛	鹿狩りのときに獲物を呼び寄せるための笛。鹿の鳴き声に似せた音を出す。竹や角で作った半円状の枠に、鹿の胎児の皮やヒキガエルの皮を張るといふ。シブエなどとも呼ばれる。							シカノヨビ、フエ、ヨビ、フエ			
 もりこ	兔などの小動物の猟で獲物を持ち帰るための運搬具。板に短い縄を何本も取り付けてあり、これで獲物の頭を縛って吊るす。										
 かわげた 皮桁	毛皮をとる目的で、カモシカや熊などの獣の皮をはいでぬすために用いる木枠。越後三面でカゲタ（皮桁）。獲物の種類により、アオシカガタ・ジシカガタなどという。		カゲタ								
 くまのいがた 熊の胆型	熊の胆嚢は万能薬として知られ、マタギが熊狩りの第一の目的としたもの。これを形よく乾燥させるための木型。シアゲカタなどと呼ばれる。	クマノイホシ				ホシバコ					

狩猟